

【第1部】教師海外研修概要

1-1 教師海外研修の趣旨

本研修は、国際協力に関心があり、授業やクラブ活動などで開発教育や国際理解教育を実践している小学校・中学校・高等学校の教師及び教育委員会の指導主事を対象に、開発途上国で国際協力の現場や現地の生活実態を視察し、今後の授業に役立てる機会を提供することを目的とした研修プログラムです。

兵庫県からの研修参加実績

年度	参加者数	研修国：参加者内訳（人数）		
1996	2	タンザニア：高校（2）		
1997	3	ジンバブエ：中学校（1）	ベトナム：高校（2）	
1998	4	バングラデシュ：中学校（2）	メキシコ：高校（2）	
1999	0			
2000	3	モンゴル：中学校（2）	ケニア：高校（1）	
2001	4	ラオス：中学校（2）	ヨルダン：高校（2）	
2002	2	ドミニカ共和国：中学校（2）		
2003	6	ベトナム：小学校（2）	ラオス：中学校（2）	ケニア：高校（2）
2004	6	フィリピン：小学校（2）/ 高校（2）	ラオス：中学校（2）	
2005	6	タイ：小学校（2）/ 中学校（2）/ 高校（1）/ 教育委員会（1）		
2006	8	スリランカ：小学校（2）/ 中学校（1）/ 高校（3）/ 教育委員会（2）		
2007	8	インドネシア：小学校（4）/ 中学校（1）/ 高校（2）/ 教育委員会（1）		
2008	7	インドネシア：小学校（3）/ 中学校（3）/ 高校（1）		
2009	8	ベトナム：小学校（1）/ 中学校（2）/ 高校（3）/ 特別支援学級（1）/ 教育委員会（1）		
2010	8	中華人民共和国：小学校（3）/ 中学校（1）/ 高校（3）/ 教育委員会（1）		

小学校については、2002年度から開始（2002年度は、兵庫県からの参加者なし。）

1-2 教師海外研修の目的

JICA 事業の視察や JICA ボランティア（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア）・専門家などとの意見交換を行い、ODA（政府開発援助）による国際協力事業に対する理解を深める。

現地の学校視察及び教員との意見交換を実施し、中国の教育事情を理解する。

現地の人々との交流を通じて、中国の生活・文化・社会事情を理解する。

日系企業の視察を通じ、日本と中国とのつながりを知る。

帰国後の授業実践に活用できる教材や物品を収集する。

一連の研修を通じて感じたことや体験したことを基に、授業実践計画を作成し、各所属校で開発教育・国際理解教育の授業を実践する。

本研修終了後も、開発教育・国際理解教育を継続して実施し、各所属校及び地域の教員に対して開発教育の普及を推進する。

1-3 2010 年度教師海外研修の日程

2010 年										
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月 ~ 12 月	1 月	2 月			
4/18	5/21	6/20	7/11	7/29	7/30~8/7	8/9・10	10/17	1/7	2/20	
募集説明会	選考結果通知	第1回事前研修	第2回事前研修	第3回事前研修	海外研修	事後研修	授業実践	授業進捗報告会	授業実践報告書提出	授業実践報告会
<b style="color: red;">募集期間 4/1 ~ 5/18										

1-4 2010 年度海外研修の概要

(1) 派遣国概要

国名：中華人民共和国
 首都：北京
 面積：約 960 万平方キロメートル（日本の約 25 倍）
 人口：約 13 億人
 民族：漢民族（総人口の 92%）及び 55 の少数民族
 言語：漢語（中国語）
 宗教：仏教、イスラム教徒、キリスト教徒など
 通貨：元
 GDP：約 33 兆 5,353 億元（約 4 兆 9,000 億ドル）
 （2009 年中国国家統計局）
 1 人当たりの GDP：約 3,404 ドル（2008 年 IMF）



(2) 派遣国の選定理由

兵庫県には現在約 10 万人の外国籍住民が暮らしている。中国国籍の住民は県内の外国人登録者としては 2 番目に多く、その数は 25,760 人にのぼっている（2009 年 12 月末現在）。中国国籍又は中国にルーツを持つ児童・生徒が在籍する学校も多く、日本語指導が必要な児童・生徒も少なくない。そのため、教師海外研修の派遣先として中国を希望する声が上がっていた。また、メディアによって流される情報に惑わされず、自分の目で実際に中国を見て生徒に伝えたいという声も多く聞かれていた。

以上のような状況に鑑み、中国とのつながりや現状を教員自身が肌で感じて理解することは兵庫県の教育現場において重要であると考え、派遣先を中国に決定した。

(3) 海外研修日程表

順	月 日	曜日	日程	宿泊地
1	7月30日	金	JICA 兵庫 関西国際空港 北京	北京
			JICA 中国人民共和国事務所訪問	
			財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) 北京事務所訪問	
2	7月31日	土	ほんたんたん 紅丹丹教育文化交流中心(草の根技術協力事業(草の根協力支援型) 「視覚障害者音声情報提供技術指導事業」) 視察	北京
			北京市内視察	
3	8月1日	日	北京 フフホト	フフホト
			フフホト市内視察	
4	8月2日	月	内モンゴル師範大学訪問・意見交換(青年海外協力隊(日本語教師) 活動現場)	杭錦旗
			フフホト ころきんき 杭錦旗	
			オルドス市杭錦旗中学校訪問・交流(青年海外協力隊(日本語教師) 活動現場)	
5	8月3日	火	「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業プロジェクト」杭錦 旗モデル地区視察(内モンゴル自治区杭錦旗水務局・内モンゴル自 治区杭錦旗庫布齊砂漠・内モンゴル自治区杭錦旗錫尼鎮布哈岱村)	杭錦旗
6	8月4日	水	円借款「内蒙古自治区植林植草事業」視察	北京
			オルドス 北京	
7	8月5日	木	「中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクト」視察	北京
			北京市内視察(教材・資料購入)	
8	8月6日	金	バンドー化学株式会社(天津)視察	北京
			開発区視察	
			天津市内視察	
9	8月7日	土	振り返り	
			北京 関西国際空港	

中国で見たこと、感じたこと（写真のコメントは、参加者による。）



360度、見渡す限りどこまでも続く乾燥した大地。電気はかろうじて通じるもののインフラが十分とはいえないこの場所で、節水型灌漑事業に携わる現地専門家（阿部）



北京の電子街で見つけた語学の早期教育を勧める看板。右上「早く始めるほど伸びます」左下「大きな結果」というニュアンスの言葉が…。激しい競争社会を垣間見た感じがしました。（阿部）



「死ぬまで緑を植え続けるつもりです。」日本の資金提供を受けた植林事業をライフワークとされる郭さん（写真中央）、砂漠化防止の最前線にある姿は、使命感に裏打ちされ輝いているように思いました。（阿部）

何でもかんでもたくさん積んで走る自転車が多い。自動車やバスのけたたましいクラクションにも負けず、力強くペダルをこいでいる。（上田）



北京市内の路上で勉強している女の子。小さな机と椅子でとても窮屈そうだが、おしゃべりもせず一生懸命、数学の問題に取り組んでいた。（上田）

街中で見かけた電動自転車。日本のものと違いペダルはバッテリー切れ時の緊急用。免許不要で気軽に乗れるそうです。（ただし街中で走行するのは度胸が必要）。（奥内）



渡航前に中国で使える電源変換プラグの種類がよくわからず、手持の種類をすべて持って行った。結局すべての物が使えました。（何でも使えるようになっていました。）（奥内）



中国で見たこと、感じたこと

北京博愛医院专家出診一覽表 出診時間以當日挂号为准

科室	姓名	职称	专病门诊时间	挂号费
	丁伯超	主任医师	周五上午	14元
	刘克敏	主任医师	周一、周四下午	14元
	唐 涛	主任医师	周一、周二上午	9元
神经内科	孙 康	主任医师	周一全天	14元
	王利清	副主任医师	周三全天	7元
	周剑云	副主任医师	周五全天	7元
内科	孟 申	主任医师	周二下午、周五上午	14元
	杨昭禄	主任医师	周五上午	14元

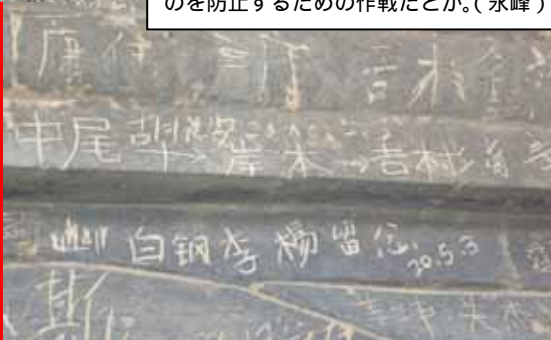
その日の担当医を紹介している掲示板です。有名な先生の診察を受けるために、全国から患者が集まるそうです。(奥内)



どれほどリサイクル産業が盛んかは分からないけれど、分別タイプのごみ箱がどこへ行ってもありました。リサイクル BOX のゴミは、この国では何になるのか？(澤武)



駐車してある自家用車のタイヤ&ホイールに不可解な板が！迷惑駐車への警告かと思いきや...犬が小便をかけるのを防止するための作戦だとか。(永峰)



「五塔寺」の美しい外観を眺め、その文化的背景に思いを馳せながら内部を拝観すると、いくつかの落書きが...！様々な国の文字で落書きがされている中に、日本人によるものと思われる落書きもありました。とても悲しい気持ちになり、五塔寺を後にすることとなりました。(永峰)

内モンゴル 北京の飛行機から万里の長城が見えました。普段はめったに見られることがないので、かなりラッキーな私たちでした。(澤武)

粘土で作ったお面。目のくぼみやあごの形に特徴が！視覚障害のある方が、自分の指や手のひらで触って感じた形や凹凸を、粘土の作品に仕上げているものだとか。(永峰)



学校の校庭にあった卓球台です。盤面が石、ネットが鉄でできています。日本の卓球台とは使用感がかなり異なり風にも弱いですが、そんな状況でも当たり前のように遊んでいることに驚きました。(投石)



中国で見たこと、感じたこと

夕刻の屋台街です。活気があって呼び込みも積極的。ラーメンをいただきました。(投石)



天道酬勤 宁静致远



学校の生徒。とても人懐っこく好奇心も強く子どもらしい印象。話を聞くのに夢中でした。(投石)



北京市内の公衆トイレです。外部に開かれたきれいなトイレです。目が合うか、後ろ姿を披露するか。我慢できなければ、究極の選択です。(吉井)

街路樹の隙間から差し込む、真夏としては珍しく穏やかな陽光。周りの木の葉の位置で分かるとおり、朝日でも夕日でもありません。大気汚染が深刻な北京市内から(吉井)



内モンゴル自治区の杭錦旗の村集会所に集まった農牧民の皆さんです。村全体が大きな家族となり、大切に育てられる子供。「子は国の宝」を感じさせる一枚です。(吉井)



内モンゴルの庫布齊砂漠。一面の砂。どこを見ても砂砂砂...。思わず美しいと感じてしまった。昔は草原だったのだから驚いた。こんなサラサラの砂に植林するのは、難しそうだ。(吉田)

内モンゴルの村にて発見。日光の光を集めて、お茶を沸かす器具。電気を使わないなんて、なんてエコなのだろうと感心しました。これぞ、チャイナクール!!(吉田)

